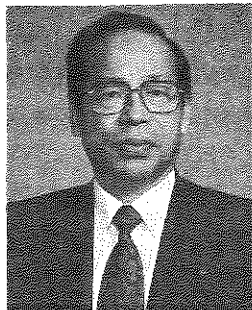


栃木県中学校長会報



アメリカの 教育を垣間見る

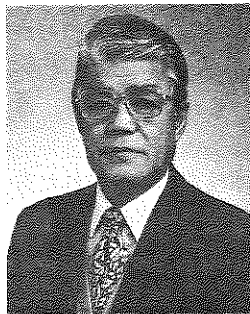
栃木県中学校長会副会長
宇都宮市立一条中学校
校長 高梨 眞佐岐

本校には、ALTとして、アメリカのタルサ市から来たロバートという青年がいる。温厚で思慮深く言動は控え目であり、生徒に対しても温かく接し、生徒から信頼されている。その彼が、ある時授業をしていて、教師の説明を聞かないで話しをしている生徒に対して、ものすごい勢いで叱ったそうである。「聞くべき時はよく聞け、それが出来ないで、人に迷惑をかけるのはいけない」と普段の彼からは想像も出来ないような容謝のない厳しさだったという。人として守るべき基本的なことは、絶対に守らせるという彼の信念がそうさせたようだ。

中教審の第一次答申の中でも、「生きる力」の育成を挙げて、自ら考え自ら問題を解決していく資質能力を培うことの大切さ等を指摘しているが、その基盤に、思いやりとか相手の立場になって考えること、あるいは社会生活上のルールや基本的なモラルなどの倫理感など、人とかかわりを大切にしたい力をつけておかないと、単に自己主張の強い自分本位の片寄った人間となりかねない。

ALTのロバートさんは、いつの時代でも人として守らなければならないことは、子供の時にこそ身につけさせないと遅いと言う。そうした彼の思いが授業の中での厳しい叱り方となって出たようである。

彼は、教師はもっと自分の思いを生徒に伝える努力をすべきだと言う。私は君達が好きだ。だから君達のいい加減な姿を黙っていられないと何度も生徒に訴えると言う。新しい時代の変化に対応する力の必要性は種々主張されるが、その基盤になる人としていつの時代でも身につけなければならないことを今更ながら考えさせられた出来事だった。



木と遊び、 木に学ぶ

栃木県中学校長会副会長
黒磯市立厚崎中学校
校長 村上 清

木と遊び始めてから、かれこれ二十数年になる。木には、どこかほっとする優しい雰囲気と魅力がある。それは、木独特の味わいの深さと、個々の樹木特有の成長過程と樹齢に応じた木目の美しさであろう。近ごろ、「けやき」が作り出す見事な木目に惹かれている。その木目の中心には、必ずと言ってよい程、木が生育する中で受けた苦しみ跡や傷がある。木は全エネルギーを傾注してその傷を癒そうとするのであろう、そこに独特の木目を形成する。時には、燃え上がる炎、また、銀河の流れ、そして、孔雀が羽を目一杯広げた模様を作り出す事すらある。誠に「不可思議」であり、自然という芸術家の偉大さに圧倒される。

* * * * *

私には、木をこよなく愛する「けやきの会」の仲間がいる。職業はいろいろであり、事故で左の手足、左目を失った年輩の彫刻家を支援している若い仲間もいる。彼が実践している材料の提供、作業の手伝い等、出来そうで出来ないことであらう。

会の楽しみは、原木の購入、製材、制作、そして支援等たくさんあるが、楽しみよりも学んだことの方が多気がする。膨大な労力と経費のもと、一枚の板が製材される過程を見れば、木っ端ですら捨て難い。仲間の一人が最近読んだ本（「木の聲」稲本正著）にある西岡常一氏の言葉を紹介してくれた。「・・塔組みは木組み、木組は木のくせ組み、木のくせ組むには人を組み、人を組むには、人の心組み・・学校経営も同じでしょうね」。有り難い言葉である。今夜も、「けやきの会」の集まりがある。

先日購入した「けやき」をどう製材し、どう生かすかが話題の中心となろうが、時には飛び出す教育談議もまた楽しみである。



校長室の 書画に学ぶ

栃木県中学校長会副会長
岩舟町立岩舟中学校
校長 小倉久吾

本校を初めて訪れた方が、校長室の壁面を見て、「素晴らしい絵画や書がありますが、どなたの作品ですか。」とよく言われる。その答には戸惑ったものである。そこで知人や文献をたよりに調べることにした。

書の扁額「従天命盡人事」は、落款も不鮮明で解読は不可能であったが、調べるにつれ、筆者は明治11年本町生まれの鈴木千代吉氏であり、東亜化学工業の社長などの要職を歴任し、化学肥料関係の著書40数冊、特許20数件等、多大の功績を残されている。

「人事を尽くして天命を待つのでなく、天命に従って人事を尽くす。」のだと筆者は常々言われており、昭和25年、旧岩舟中体育館の落成記念に寄贈されたとのことである。

また「軍鶏団らんの図」は、母鶏と3羽の中雛がくつろいでいる様子が描かれている大額である。

著者は明治7年本町生まれの時田南鳳（喜一郎）氏である。京都に於いて菊地芳文画伯（三千院に襖絵あり）に師事し、院展に何回か入選している。揮毫するにあたり、長い間構想を練り、横山大観画伯の助言をいただき完成されたとのことである。

次代を担う中学生には、3羽の中雛のように仲睦まじく、励ましあい助けあって雄々しく成長して欲しい。また、教師には母鶏のように厳しさの中にも慈愛の心を持って、生徒を導き育てて欲しいと願い、昭和24年に寄贈されたとのことである。今年度は、新制中学校発足50周年、また、本校実質統合20周年、この節目の年の講話朝会で寄贈の経緯や著者の制作意図について紹介し、共に学ぶことができた。

第48回全日本中学校長会 研究協議会東京大会に 参加して

事務局長 須藤光弘（宇・陽東中）

第48回全日中東京大会が、10月30・31日の2日間、新装なった「東京国際フォーラム」において開催された。本大会は、中学校教育50年記念式典並びに記念研究大会として全国より727名の招待者・3,850名の中学校長が参加し、新制中学校発足50周年にふさわしい盛大な大会となった。

第1日目は、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、厳重な警戒体制のもとで記念式典が挙行された。全日中佐野金吾会長の「教育はあらゆる社会システムの基盤であるとの立場から、私達は50年間の中学校教育の成果と課題を明確にして、今日の改革の動きに対応していくことが重要」との挨拶に始まり、天皇陛下から、教育の重要性に鑑み、教職員の苦勞への労いと励ましと期待のお言葉をいただいた。続いて総理大臣代理をはじめ多数の来賓の方々から激励の祝辞をいただいた。

郷土芸能として浅草寺の金龍の舞が奉演され、長さ18mの勇壮華麗な金龍が会場せましとかけ巡り、正に圧巻であった。

午後の記念研究大会では、奈良県小原中学校長松實豊先生から「生きる力にあふれた子どもの育成」と題し、地域の特性を生かした選択教科の在り方についての発表に続き、東京都一橋中学校長、松丸一先生から「生涯学習社会における中学校の在り方と校長の役割」について東京都立中学校の実践事例の分析から抜粋して発表がなされた。

2日目は文部省からの中教審・教課審答申の経緯とまとめの説明後、前東北大学総長の西澤潤一先生の記念講演があった。「独創は闘いにあり」と題し、現在まで日本を支えてきた科学技術と人材確保の今後の課題についての熱弁に感銘を受けながら、東京大会が盛会のうちに終了した。

研究学校発表概要

平成8・9年度 県教委・町教委指定
学校安全教育に関する研究学校

「自然や社会の安全について 学び、生涯にわたって安全な 生活が実践できる生徒の育成」

塩谷町立大宮中学校長
富川 黎 司

1 はじめに

健康で安全な生活を送っていくことは、私たち人類にとって最も大切なことであり、生涯を通じて学び、身につけなければならないことである。また、阪神・淡路大震災以来、緊急時の危機管理についての必要性が叫ばれている。交通安全だけでなく、生活一般の安全、自然災害発生時の安全に関する領域において、安全のために必要なことがらを実践的に理解し、自他の生命を尊重し、安全な生活を営むことのできる態度や能力が求められている。そこで、本校では、「生きる力」の育成を図りながら、生徒が自他の生命を尊重し、日常生活の中にある危険に気づき、的確な判断ができ、安全な行動がとれる生徒を育てることにより、生涯にわたって安全な生活が実践できるような生徒の育成をめざした。

2 研究の実際

(1) 学習指導部の実践

① 学級活動における取り組み

学級活動を通じて、安全に行動するための知識や技能と態度の育成をめざした。授業について次のような点に重点を置き実践した。
ア 生徒が主体的に活動できるように支援し、進んで安全な行動ができるようにする。
イ 地域の実態に合わせた題材を、地域の人材の協力を得て指導する。

ウ 話し合い活動などを取り入れ、生徒同士が揺さぶり合う場を設けるようにする。

② 道徳における取り組み

道徳の時間を通して、安全に関する心情や判断力、実践意欲・態度の基盤を育成することをめざし、次のような主題に重点を置き、研究した。

- ア 望ましい生活習慣
- イ 自主・自律・責任
- ウ 生命の尊重
- エ 権利・義務・公德心
- オ 感謝・思いやり

授業の流れを、導入・展開前段・展開高段・終末の4つの段階に区切り、展開前段では生徒の多様な考えや、より高い価値観を引き出し、展開後段では高められた価値に照らし、資料から離れて今までの自分を振り返り、内面化が図れるような授業の流れを構築することとした。

(2) 生徒活動部の実践

① 研究の内容

生徒会の運営や年間計画を、安全の視点から見直し、委員会活動や生徒集會を、生徒の主体性が発揮できるような活動として支援した。また、生徒会活動の活性化と、学校行事への積極的参加を図り、安全意識の高揚や安全に対する実践力を育成した。

② 生徒会活動における主な取り組み

生徒会安全目標の設定・生徒集會・シンポジウム・看板作成と設置・自転車点検・校内文化祭での安全コーナー・安全だよりの発行・安全に関する標語募集と発表会。

③ 学校行事への取り組み

交通安全教室・避難訓練（火災、地震）・薬物乱用についての講話。

(3) 調査・啓発活動部の実践

① 研究の内容

生徒の安全に関する意識を高めることを目的に、生徒の安全に対する意識や考え方、行動、保護者の意識などを調査し、実態を把握して学級担任や各部会に情報提供した。また、家庭・地域との連携を深め、安全に関する意識を啓発し、生徒のいろいろな生活実践の育成につなげた。

3 研究の成果と今後の課題

成果としては、学級活動や道徳の授業を通して、安全についての知識が身につくとともに、安全への心情や態度の基盤が育成され、安全な生活を送ろうとする意識が高まった。また、生徒会活動がより活性化し、安全に対する実践力が育成された。今後も学校安全教育について研究し、深めていきたいと考えている。

平成7・8・9年度 文部省・湯津上村教委指定
武道指導推進校

「心豊かで、強い意志を持つ 生徒の育成を目指した 武道指導（柔道）」

湯津上村立湯津上中学校長
直 範 則 夫

1 はじめに

現代の学校教育には、21世紀を担う人間として、国際化や情報化の中、急激に変化発展する社会に主体的に対応し、「豊かな心」を持ちたくましく生きる生徒の育成が求められている。

いかにすれば、主体的に考え判断し行動することのできる資質や能力を育成することが重要になってきているのである。

そこで、本校では、この意欲や資質、能力を身に付けるには、その基盤として、身近なところに目標を設定し、粘り強く着実にやり抜く「強い意志」を育てることが不可欠と考え、武道指導（柔道）と道徳・学級活動との関連に視点をあてて見直し、三者の連携をはかった指導のありかたについて研究を進めることにした。

2 研究の実際

(1) 武道指導研究部

ア 研究課題

柔道の特性を生かし、主体的に学習に取り組む生徒の育成

イ 研究内容

(ア) 諸計画の見直しと作成

a 年間指導計画と武道領域の取扱いについて

b 学年別指導計画について

c 単元の指導計画について

(イ) 指導過程と学習形態の工夫

(ウ) 指導法の工夫

a 男女共習の授業について

b ティームティーチングによる指導方法について

c 教材・教具の活用法について

(エ) 評価の工夫について

(2) 道徳研究部

ア 研究課題

礼儀正しく、思いやりの心と強い意志を持つ生徒の育成

イ 研究内容

(ア) 年間指導計画の見直し

(イ) 生徒の主体性を生かす工夫

a 資料の選定及び自作資料の作成

b 複数教師による指導の試み……

……副担任とのTT

(ウ) 育てたい能力態度の年間指導計画と指導案への位置付け

(3) 学級活動研究部

ア 研究課題

思いやりの心をもって、物事に粘り強く取り組む生徒の育成

イ 研究内容

(ア) 年間指導計画の見直し

(イ) プログラム委員会の活用

(ウ) 育てたい能力態度の年間指導計画と指導案への位置付け

(エ) 複数教師による指導の試み……

……副担任とのTT

3 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

ア 男女共習の武道（柔道）の授業を通して、学び合い、喜び合い、励ましあう場面を異性間で共有することにより、相互に尊重する態度がいっそう身に付いた。

イ 武道指導のねらいと共通する主題や資料を道徳・学活において扱う「側面的指導」との連携によって、思いやりの気持ちが徐々に生徒たちに浸透してきた。

(2) 今後の課題

ア 今回の研究では、生徒一人一人の豊かな心の育成には効果があったと思われる。今後は、生徒が組織的に集団で生活向上のために活動できる場面をふやし、より強い意志をもつ生徒の育成に努めたい。

イ TTの授業を工夫し、一人一人の特性を引き出す学習過程や「個を生かす」「個が生きる」指導方法をさらに研究していきたい。

平成9年度 各専門部活動報告

☒ 調査部

部長 古田 土 渡 (宇・陽西中)

調査部は、前年度に引き続き全日中教育情報部と共同し「中学校に関する調査」を平成9年6月に実施しました。内容は次のとおりです。

- (1) 公立中学校の学校数・学級数・生徒数・教員数の増減状況に関する調査。
- (2) 平成9年度教育費（都道府県負担金）に関する調査。
- (3) 学級数別教員定数に関する調査。
- (4) 中学校教員の需給状況に関する調査。
- (5) 教員に関する都道府県教委の異動方針に関する調査。
- (6)～(8) 教員待遇、旅費、資質向上に関する調査。
- (9) 担当教科数・免許外教科担当に関する調査。
- (10)～(11) 高校入試制度等及び中学校の教育課程に関する調査。
- (12) 校長の退職に関する調査。
- (13) 校長、教頭の選考制度等に関する調査。
- (14)～(15) 校長の待遇、年齢別人数に関する調査。
- (16) 中学校に設置する特殊学級に関する調査。
- (17) 学校給食に関する調査。
- (18)～(19) 寄宿舎、へき地の学校教育に関する調査。
- (20) 生徒指導対策費に関する調査。

以上の調査実施にあたっては、県教委義務教育課人事係の資料提供と協力を頂きました。

なお、(9)担当教科数、免許外教科担当状況に関する調査については各地区調査部員の方々のご協力を得ました。更に他県からの教育予算等に関する照会については、県教委義務教育課人事係からの資料で回答しておきました。

また、校長会要望書内容検討会を5月20日に開催し、文言や条文の削除、重点項目の追加等が改正点が幾つか指摘され県理事会にて報告し参考にして頂いた。

☒ 研修部

部長 伊 澤 哲 夫 (宇・泉が丘中)

1 第1回研修会（4月24日）教育会館

(1) 平成9年度役員・組織

部 長 伊澤 哲夫 (宇・泉が丘中)

副部長 黒須 英雄 (小・小山城南中)

副部長 君島 由彦 (塩・氏家中)

(2) 研修活動計画の設定

・研究主題「学ぶ意欲と主体的に生きる力を育てる中学校教育」

・副主題 ～生徒一人一人を生かした教育活動の推進～

・重点課題と研究の視点～略～

2 第2回研修会（7月14日）教育会館

(1) 栃木県中学校50年記念行事・研究発表

・3地区の発表・記念行事、研究発表日程細案・役割分担

(2) 研究収録20集の編集方針・執筆要項の確認

3 栃木県中学校50年記念行事・研究発表

(9月9日) 於：プラザイン・くろかみ

(1) 開会行事

(2) 研究発表

・今年度の重点研修課題・研究の視点

・3地区の研究発表（宇河地区、南那須地区、栃木地区）

(3) シンポジウム

(4) 記念式典

(5) 祝賀会

4 第3回研修会（12月5日）教育会館

(1) 今年度の研修活動・研究発表の反省

(2) 次年度の研究計画：研究主題、副主題、重点課題、研究の視点

(3) 次年度以降の研究発表担当地区（関プロ中学校長会・栃木県中学校長会）のローテーション確認

(4) 研究収録20集の校正

◇ 編集部

部長 三村文雄(足・坂西中)

平成9年度の栃木県中学校長会報発行に当たっての編集部の構想、部会の開催、会報内容の概要等は次のとおりである。

1 平成9年度会報の構想

(1) 会報は年2回発行する。(87号、88号)

ただし、内容はほぼ従来どおりとする。

(2) 「地区だより」については、「活動計画」「活動結果」を報告する地区が固定しないように年度ごとに入れ換える。

(3) 後期号(88号)に専門部の活動結果の報告を掲載する。

(4) 87号、88号ともに12頁編集とする。

2 編集部会

第1回 平成9年4月24日(木) 教育会館
役員決定、本年度の編集方針の協議

第2回 平成9年5月30日(金) 清原中
会報87号の内容、執筆者の選定、原稿依頼

第3回 平成9年12月18日(木) 坂西中
会報88号の内容、執筆者の選定、原稿依頼、今年度の反省と次年度への改善点

3 会報の発行とその内容

(1) 会報の発行

年2回発行(第87号・第88号)

第87号 平成9年9月9日発行

第88号 平成10年2月1日発行

(2) 各号の内容

[第87号] 役員所感、各専門部の活動計画、退任にあたって(千本前会長)、関東甲信越(茨城)大会報告、新任校長の一言、地区だより、私の朝会訓話、お知らせ(関プロ大会等)

[第88号] 役員所感、全日中東京大会報告、研究学校報告(2校)、各専門部の活動報告、地区だより、海外研修報告

◇ 職員対策部

部長 大谷恵一(南那・七合中)

平成9年6月3日(火)に部会を開催し、本年度の組織及び事業計画について協議しました。事業としては、福利厚生部との共催による「退職後の生活設計について」を主題とする研修会を実施することになり、計画通り実施しました。研修概要は次の通りである。

1. 主 題 「退職後の生活設計について」

2. 日 時 平成9年11月21日(金) 13:30~16:00

3. 会 場 栃木県教育会館

4. 参加者 会員約60名

5. 研修内容及び講師

(1) 医療保険について

〈県教委福利課福主幹兼資格係長 篠崎旭〉

・退職後の医療

・任意継続組合員制度

・継続療養制度等

(2) 退職手当について

〈福利課副主幹兼給付係長 伏木公夫〉

・退職手当の種類

・退職手当の計算と各種課税等

(3) 年金制度について

〈福利課主幹兼年金貸付係長 鬼頭行尚〉

・年金の種類

・退職共済年金の内容と仕組み及び支給等

(4) 教育福祉振興会「退職者部会」について

〈福利課退職者部会主幹 小倉賢次郎〉

・退職者部会制度

・互助年金制度の概要等

これら4つの研修内容の講話に先だち、福利課谷口課長から挨拶があり、全体的な御指導をいただき、講話後、質疑応答等もあり、退職を1~2年後にひかえた会員多数が意義ある研修ができました。また、要望書作成にかかわる各地区の意向調査にもご協力いただきありがとうございました。紙上にて御礼申し上げます。

◇ 進路対策部

部長 片柳 實(小・間々田中)

平成9年4月24日(木)県教育会館において、専門部会を開き、本年度の組織、年間事業計画及び計画推進について協議し、次のように決定して運営することとした。

○ 本年度の事業計画

『中学校進路指導の適正な推進と高校教育改革への提言』を中心的課題とし、アンケートにより13地区の意見を聴取して、本部会としての意見をまとめ、それに基づいて活動していく。主な内容項目は、①高校教育制度に関すること、②高校入学者選抜に関すること、③中学校進路指導の適正化についてである。

◇ 第1回研修会

ア 期日 平成9年7月8日(火)

イ 場所 県教育会館 会議室

ウ 内容

・前回の本部会の報告

・各地区のアンケート調査結果の発表をもとに、本部会としてのまとめ

主な内容は、①高校教育制度に関すること、②高校入学者選抜に関すること、③私立高校の教育・入学者選抜に関すること

◇ 第2回研修会

ア 期日 平成9年9月17日(水)

イ 場所 県教育会館 会議室

ウ 内容 『私立高校の教育・入学者選抜』

・平成9年度入学者選抜状況について

・平成10年度私立高校の入試について

・平成8年度卒業生の進路状況について

・生徒指導の現状と中学校への要望

・中学校側からの要望

県文書学事課職員、私立中高連合会代表4名及び県中校長会役員・部会々員が出席して合同で研修会を開催した。

◇ 第3回研修会

ア 期日 平成9年11月21日(金)

イ 場所 県教育会館 会議室

ウ 内容 『県立高校の教育改革・入学者選抜、中・高の連携及び氏家高の進路状況』

県教委高校教育課職員2名、義務教育課職員1名及び県中校長会役員・部会々員が出席して本県の高校教育改革の現状、中高連携の在り方等忌憚のない活発な意見の交換が行われた。

◇ 修学旅行部

部長 古泉 臣一(宇・宮の原中)

平成9年5月9日において部会を開き、本年度の組織及び事業計画を立て、それに基づいて活動を展開してきた。なお、本部会は従来から関東地区公立中学校修学旅行委員会(関修委)及び全国修学旅行委員会(全修協)との関わりがあり、それらの研究団体との連携を図りながら、活動してきた。

・ 6月6~7日 関修委総会並びに第1回研究協議会(千葉県鴨川)

・ 6月24日 「平成9年度修学旅行実施報告書」及び「平成11年度関西・東北方面修学旅行専用列車申込書」を地区部会長をとおし配布

・ 7月4日 3地区(関東, 東海, 近畿)中学校修学旅行委員会研修会(東京)

・ 7月28~29日 「京都修学旅行を考える」懇談会(京都)

・ 8月8日 関修委事務局へ「平成9年度修学旅行実施報告書」及び「平成11年度関西・東北方面修学旅行専用列車申込集計票」を提出

・ 9月4日 栃木・茨城合同修学旅行委員会(茨城県水戸)

・ 9月5日 関修委第2回研修会(東京)

・ 9月18日 全修協修学旅行セミナー(新大阪)

・ 9月19日 関修委第3回研修会(東京)

・ 10月15日 関修委第4回研修会(東京)

・ 10月27日 「平成11年度関西・東北修学旅行新幹線輸送計画書」及び「関西の旅等の案内書希望申込書」を地区部会長をとおし配布

・ 11月28日 全国修学旅行研究大会(埼玉県浦和市民会館)

・ 平成10年1月20日 教材研究所へ「関西の旅申込書集計票」を提出

・ 2月3日 各県修学旅行委員長・部会長会議(埼玉県浦和市)

・ 2月18日 関修委第5回研修会(東京)

☒ 福利厚生部

部長 君島 勇(河・南河内中)

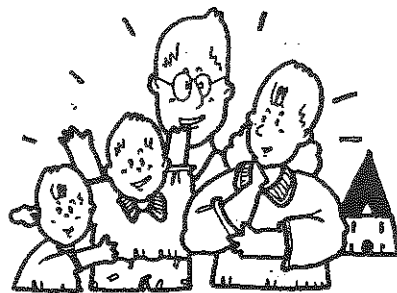
平成9年度の福利厚生部の活動は、次のとおりであった。

- 1 「生徒手帳」編集会議
(丸治ホテル) 平9、9、6
 - ア 部活動経過報告
 - イ 運動能力、体力診断テスト記録
 - ウ 悩み相談機関一覧の挿入
 - エ その他改正すべき箇所
 - オ 中学校50年記念行事への係分担について
- カ 情報交換
上記のことについて、会員が分担して作業に取り組む。
- 2 「退職後の生活設計について」
(教育会館) 平9、11、21
 - ア 医療保険について
 - イ 退職手当について
 - ウ 年金制度について
 - エ 退職部会について
講師として県教育委員会福利課から課長をはじめ各係の方々の講話をいただいた。
(職員対策部との共催事業)
- 3 「新しい道」「中学生の安全」編集会議
(丸治ホテル) 平10、2、21
 - ア 両副読本の内容検討
 - イ 本年度事業の反省と次年度の事業計画
 - ウ 情報交換

☒ 生徒指導部

部長 真船 淑和(宇・瑞穂野中)

- 1 研究課題「いじめへの対応」
生徒指導部はこの課題に迫るため、各部員の勤務校、あるいは勤務地区内中学校における実践研究や考えられる対応の様々な方法に関して資料を持ち寄り、情報交換を行い、今後の「いじめ」への対応のあり方に関して研修を深めた。
 - 2 実践例
 - 1) 全校体制による月1回の「悩み」「いじめ」の調査アンケートの実施(記名式)
 - (1) 「悩み」・・・必要に応じて担任による教育相談の実施、学期1回の教育相談週間(担任以外の教師とも相談可)
 - (2) 「いじめ」・・・アンケートの結果を集計し、「学級通信」として保護者のみならず、教育委員・自治会長・民生委員関係諸機関にも配布。
「いじめ」に対する認識を深めると共に、同じ地域との連携を深める。
 - (3) PTAいじめ対策組織を設置・・・定期的な情報交換・事例研究会の実施
 - (4) 生活目標の設定・・・時間厳守、定時登校、チャイム着席、教職員の率先垂範
 - (5) 不登校対策委員会・・・職員会議終了後実施
 - 2) 集会の活用・・・朝会等で、命の尊さ・大切さ、お互いの存在を認め合うことの意義、集団生活の在り方等に関して、分かり易く事例を基に話をすると共に、各担任に講話内容を学級活動等の時間を活用して確認してもらう。
 - 3) 現職教員における道徳の研究授業の活用
 - 4) 教育相談員との連携・・・月1回定期的に学校で、不登校生徒を中心に情報交換
 - 5) 地域との連携・・・PTAや保護者に留まらず、以下の関係諸機関との連携を深める。
 - (1) 地区少年補導連絡会議及びいじめ対策委員会の設置
 - (2) 駐在所警察官との連携
 - (3) 地区懇談会で生命尊重・人権尊重を軸に講演を行い、懇談を持つ。
- 平成9年11月26日(水)宇・教育会館に於いて生徒指導研修会を実施、上記の情報交換を行い、今後の対応に関して研修を深めた。



地区だより

本年度の研修活動の概要

宇都宮地区

宇都宮市中学校長会は、21名で構成されている。平成9年度は新たに7名の会員を迎え、旭中学校の間宵博校長を会長に新組織づくりがなされ発足した。

今年度の主な活動

- 研究課題
昨年度から河内郡も加わって合同で研修を行うことになり、2年間の継続研究がスタートしており、今年度はその2年目となる。校長は日頃から危機管理能力を身につけておく必要があるという観点から「学校教育における危機管理のあり方」のテーマを設定し、昨年度は研修部が中心となり、アンケートを実施し教職員の意識の実態や問題点の把握がなされた。
今年度は、その実態にもとづいて、学校経営の全般に渡って危機管理という視点から見なおしを行い、教職員の健康の問題や地域や保護者等との問題についても検討を加えるなど、幅広い観点から、その対応を考察し、学校経営の今日的課題に答えられるようにまとめた。その概要は、50周年記念大会において発表した通りである。
- 中・高校長連絡会議
宇河地区の中学校31校、高等学校11校の校長42名が参加し、進路指導を中心にしながら、学習指導や生活指導等について、7月と12月の2回話し合いがなされた。
そこでの話し合いの内容は、1日体験学習の持ち方、中高連携学習指導研修会について、中学校の運動部加入離れについてなど、幅広い内容が出されたが、特に、2回目は、新しい学力観にもとづく指導を受けた生徒の高校での状況や高校での中途退学者についての問題点等について高校側の説明をもとに話し合いがなされ、お互いの実情について理解を深め合い、充実した研修を持つことができた。

学校経営の充実を目指して

上都賀地区

- 1 はじめに
本地区中学校長会は32名で構成されて本年度は新会員5名を迎え、西方中高久善道校長を会長として研修に努め、資質の向上を図っている。
- 2 研修主題「生徒一人一人の自ら学ぶ意欲の高揚と主体的に行動できる教育活動の推進」
- 3 研修の概要
 - (1) 小中学校長合同研修会 4月11日
半田賢治教育事務所長講話「新年度にあたって」は我々に学校経営の核の部分を明確にしてくれたものであり役に立つものであった。
 - (2) 第1回定例研修会 6月26日、27日
 - ・各学校の実践資料に基づく研究協議
 - ・今市市教育長宮本明尚先生による「教育雑感」の講話を聞く。
 - (3) 県外教育事情視察
山形県天童市立第4中学校の研究「自主的で実践力のある生徒を育てる指導」は個に応じた学習指導法の改善を3年間も継続研究されたものであり勉強になることが多かった。
特に、個に応じるのは「応じる」を学習活動・時間の工夫、課題の提示、学習形態の工夫等に分け具体化を図った研究は授業の質を高め生徒の意欲を喚起するものであった。(4) 第2回定例研修会 10月28日
 - ・今回も実践資料を持ち寄り、3分科会で協議した。本年度から学校経営は重点化を図って行うこととなった。各学校の重点化構想に基づき本音で語り合った。
 - ・日光市立東中学校の数学の授業を参観。
 - (5) 第3回定例研修会 2月26日、27日
本年度の研究のまとめと講演会。
- 4 まとめ
校長が抱える課題・悩みの解消につながった。

本年度の研修活動

栃木地区

栃木市校長会は7校で構成され、栃西中の大塚昌宏会長のリーダーシップのもとに、年間7回の定例研修会、2回の教育事情調査と、校長・教頭合同研修会を行っている。

1 定例研修会

研修テーマは「時代の要請に応える教育の実現を目指して」で、サブテーマを「教職員の資質向上を図る指導・援助の工夫」とした。

本年度は、本地区が県中学校長会の研究発表地区に当たり、昨年度の研修内容を継続して研究した。昨年度のアンケート調査を基にして、各校での教職員の資質向上を図る指導・援助の実践例及び校長個人の考えを資料として持ち寄り、討議し合せてまとめた。この内容は、第19回県中学校研究大会で、栃東中の中田昌宏校長が発表し、共感を呼んでいる。また日頃、校長として、教職員の資質向上に苦慮していることを、率直に出し合い討議できたことは、校長会としての絆を強めることができた。

2 県内教育事情調査

足利市教育委員会指定「学習ゾーンの研究」に取り組んでいる足利市立北中学校を訪問して、インターネットを利用した学習環境づくりと職員研修について研修した。

3 県外教育事情調査

文部省指定道徳教育推進校であった長崎県長崎市立橋中学校（平成7・8年度）と福岡県福岡市立警固中学校（平成6・7年度）を訪問して、研究内容及び学校運営の在り方等を研修した。両校の地域社会との連携を図った学校行事の実践や時代を先取りした選択教科によるTT教育の取り組みなど、学校週5日制を見据えての学校運営を学ぶことができた。

4 「研修のあしあと」

本年度の研修の概要を、一冊の小冊子にまとめて、記録として残している。

研修活動の概要

安佐地区

本地区は、佐野市の6中学校と安蘇郡の4中学校を合わせた10名で構成されている。年6回の研修会と1回の県外教育事情調査を実施した。

また、隣の足利市との連携を深めるため合同の研修会を1回実施して情報交換をし合って効果を挙げている。

☆ 定例研修会

本年度の研修主題は、「学ぶ意欲と主体的に生きる力を育てる中学校教育」サブテーマとして、「時代の要請に応える学校経営の条件整備」と設定し、研修を進めてきた。その概要は次の通りである。

(1) 特色ある学校経営の推進への取り組み

- ア 特色ある学校経営とは
- イ 特色ある学校経営と校長のリーダーシップ

(2) 活力ある学校づくりのための組織・運営の改善への取り組み

- ア 組織づくりでの配慮
- イ 主任を育てる工夫
- ウ 教師を伸ばす工夫

(3) 多様な教育活動を支える施設・設備の充実と活用への取り組み

- ア コンピュータの活用
- イ プールの活用
- ウ 余裕教室の活用
- エ その他の環境の活用

以上のことについて各学校の情報を交換しあい自校の課題を明らかにすることに努めた。そして足元からの解決に校長自らが熱意をもって取り組むことが重要であることを確認しあった。

☆ 県外教育事情調査

12月1日（月）、2日（火）静岡県島田市立六合中学校を訪問し、「社会の変化に対応した新しい学校経営」をテーマに文部省から指定され研究に取り組んだ成果を研修することができた。合わせて会員相互の親睦も深まり有意義であった。

一人一人が生きる学校生活の実現を目指して

下都賀地区

下都賀地区中学校長会は、北部4町5校と南部4町7校の計12校の校長で構成され、各校とも地域の特徴を生かした、学校経営に努めている。平成9年度は会長の都賀中宇賀神校長が退会され、新会長に岩舟中小倉校長の就任を得て新組織づくりがなされ、円滑なる運営が図られている。

本年度の事業は、下記の通りである。

- (1) 研究テーマに基づく研究
- (2) 学校経営に関する情報交換及び連絡・調整
- (3) 各種研修会への参加
- (4) 県外教育事情調査及びその他の調査

本年度の研修テーマは本地区石橋中が平成8・9年度県より学校経営の実験学校に委託されていることから、昨年度からの継続で「生徒一人一人が生きる学校生活の実現を目指す学校経営のあり方」とした。月例校長研修会の都度、石橋中の研究推進を核とし研究討議や情報交換を行ってきた。月例校長会は会場校を順次各校回り持ちとし、会場校の学校経営のあり方の説明を受けるなどして、参考としている。

県外教育事情調査では、愛媛県松山市立雄新中学校と高知県高知市立愛宕中学校の視察を行った。雄新中は国際理解教育の文部省研究指定校として、「中学校における国際理解教育の推進についての研究—全教育活動を通して、どのように国際理解を深めていくか—」をテーマに平成7・8年度研究を進め、平成8年11月11日研究発表を実施したところである。愛宕中は市教育委員会指定で平成8・9年度国際理解教育・ボランティア活動について「個性を育てる生き生きとした学校づくり—国際理解とボランティア活動、国際ワークキャンプを通して—」をテーマに掲げ研究を進めてきた学校である。両校とも研究紀要をもとに校長はじめ担当教員による丁寧な説明があり、質疑応答と合わせて研修を深めることができた。

これからの中学校教育のあり方を求めて

那須地区

1 はじめに
本地区では、村上清厚崎中学校長を会長として26名の会員で中学校長会を構成しており、時には小・中学校合同での研修もあり、長期的展望に立って研修を続けている。

2 研修主題

「学ぶ意欲と主体的に生きる力を育てる中学校教育」～学校週5日制の推進と新しい学校経営～このテーマに基づく研究は、平成7年度より始まり、5年間の継続研究の3年次である。

3 研修の概要

- (1) 小・中学校長合同研修会 4/7, 6/24
- (2) 小・中学校別研修会 (部会研修も含む) 5/9, 5/21, 7/31, 8/7, 9/3, 9/25, 1/27,
- (3) 全体研修会 11/13

ア 具体的研修内容及び視点

- ・新しい学力観に立脚した教育課程の編成、学校行事及び諸行事等精選上の留意点の明確化、時間割の編成
- ・校内諸会議の検討
- ・生徒の自発的、自治的な活動時間の減少によって生ずる諸問題への対応
- ・学校週5日制推進の課題とその解決のための校長のリーダーシップ
- ・教職員の資質向上と校長のリーダーシップ

イ 研修方法

- ・同一内容について全体で研修を進める。
- ・第2年次で明らかになった問題点の中から抽出して研究する。
- ・問題点、課題の解決に向かって取り組んだ成果について検討する。

4 まとめ

本研修は、全日中、関ブロ、県の研究主題との関連を図りながら、長期的展望に立って学校運営上の諸問題解決のために研修を推進しており、本地区中学校教育振興に資するように今後も継続研修を続けたいと考えている。

海外研修視察記

ニュージーランドを訪ねて

1. はじめに

国際化社会が急速に進んでいる今日、私は、平成9年度文部省教員海外派遣・栃木県第93団の一員として、10月8日から23日までの16日間、オセアニアの教育事情を視察する機会を与えていただきました。私が訪れたのは、ニュージーランドのオークランドとマヌカウ市、そしてオーストラリアのシドニーです。

私達第93団は、ニュージーランドのマヌカウ市に7日間滞在し、市役所や学校等の教育関係機関をつぶさに視察することができました。

2 マヌカウ市について

ニュージーランドの北島にあり、オークランド市のベッドタウンとして、第二次大戦後急激に発展した商業都市です。人口は約25万人、そのうちの30%がマオリ族（ニュージーランドの先住民）とその他のポリネシア系の民族で占められています。

市の中心街や田園地帯を問わず公園や森林保護区などが設けられ、緑の保存に力の注がれた美しい都市です。また、マヌカウ市は宇都宮市と姉妹都市提携をしており、私たちにとっても親しみをを感じる町でした。

3 学校訪問について

マヌカウ市で市役所、幼稚園、小、中、高等学校の訪問、そして教育関係者との交流会等をはじめ地域社会の実態調査、各自の課題別研修等じっくりと教育事情を視察することができました。

訪問した学校の子供達はみんなひとつこく笑顔で歓迎してくれました。それぞれの学校が互いの民族の歌や踊りを、毎日の学校生活に取り入れながら、互いの文化を大切にし、人権を尊重しているように思われました。

13歳から19歳の生徒が学んでいるアオレレカレッジでは、私達が学校に着くと、マオリ族の戦闘の躍り「ハカ」で歓迎してくれました。「カマ

小山市立豊田中学校長 添野 忠
テ、カマテ、カオラ、カオラ——」と唱えて士気を高める踊りは、迫力があり大変感動的でした。この学校はマオリ、サモア、トンガ、ベトナム等多民族の生徒が学んでおり、家庭の経済状況は決して豊かではなさそうでした。しかし、学校の施設設備は充実しており、各教科でコンピュータを活用したり、地域や外部企業との連携を図るなど積極的な教育活動を展開しておりました。

昼食後、高学年の生徒集会に参加しました。校長先生の話の後、合唱団の歌を聞くことができました。彼らは天性の芸術的素質に恵まれているのだろうか。美しく力強い混声合唱団の歌声は、感動的で言うに言われぬ郷愁を感じさせるものでした。

このように、多民族の学校という点で、言語、文化が様々であり、マオリの文化をはじめ様々な文化を大切にするという教育方針が、子供達の人権感覚や国際感覚を育てているように思われ、多くの示唆を与えられました。

4 おわりに

学校訪問や答礼懇親会をとおして、明るくおらかなニュージーランドの人たちと触れ合うことができました。人影も少なく、広々とした緑の芝生の美しいマヌカウ市の町並みと無邪気な子供達の笑顔が何とも印象的です。そしてその目の耀き、明るさの中に彼らの心の豊かさをも感じることができました。

